

科技高 いきもの記

Vol.40 2021.10.16

佐藤龍平

秋の鳴く虫の巧妙な配偶行動 ヒロバネカンタン

【ヒロバネカンタンの配偶行動の観察】



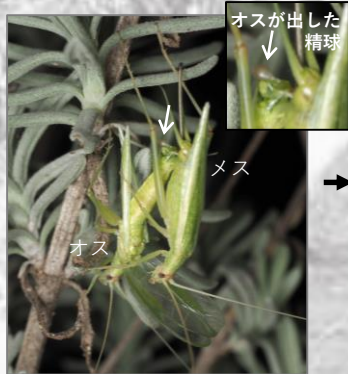
①音でメスを呼ぶ
オスは翅をこすって音を出す。メスの存在に気づくとそちらに向きを変えて鳴き始めた。



②メスの周りを動き回るオス
メスが近づいてくると、それまでじっとしていたオスがせわしく動き回り始めた。



③においでメスを誘う
オスの翅の付け根にあるハンコック腺(誘惑腺)からは性フェロモンが分泌されており、メスがなめ始める。



④カプセルで精子を渡す
メスがハンコック腺に夢中になっている間に、オスは交尾器を伸ばして精子の入ったカプセル(精球)をメスの腹端に押し付ける。



⑤精子カプセルがメスに渡った！
オスから放出されたカプセルは細い管のようなものでメスの腹端からぶら下がっている。



⑥精子の受け渡し後
精子が渡された後、約20分間もメスはハンコック腺をなめ続けていた。この間に徐々にカプセルの中の精子がメスの体内に取り込まれていく(白矢印)。



⑦配偶行動後のメス
カプセルはすっかり見えなくなってしまった。今回は観察できなかったが、空になったカプセルはメスが食べてしまうのだそうだ。栄養価の高いカプセルは卵巣をよく発達させるのだとか。

俳句で「虫」といえば秋に草むらで鳴く虫のことを指し、秋の季語になるのだそうだ。秋の夜は都会でも虫たちの美しい鳴き声が響き渡り、物哀しくも穏やかな気持ちになってくる。マツムシやスズムシと同じマツムシ科に属する「カンタン」という美しい虫は、控えめな低めの音で繊細に鳴く様子が女性的であるため(鳴くのはオスだが)、“鳴く虫の女王”と呼ばれている。虫が鳴くのはオスがメスにアピールするためだが、カンタンの配偶行動はとても変わっていて、「音」だけでなく「におい(フェロモン)」、そして「カプセル(精球)」を使う。猿江公園で美しい鳴き声の主を探していると、たまたまヒロバネカンタンのオスとメスが一緒にいるのを見つけた。目の前で配偶行動の一部始終を観察することができて、その巧妙な“アピール術”に思わず見入ってしまった。



ラベンダーの葉で鳴く
ヒロバネカンタンのオス
Oecanthus euryelytra

オスは2枚の翅をハート型に立ててこすり合わせ、ルー・ルー・ルーと少し低めの音で鳴く。全身は薄緑色で、翅は透けていて非常に美しい。古くから鳴き声と見た目が人気で、江戸時代に流行った「虫売り」では、カンタンが最も値段が高かったそうだ。

また、中国から伝わる「人生の栄枯盛衰の儚さ」を表す言葉に「邯鄲(かんたん)の夢」というものがある。この言葉と虫の名前との関連ははっきりしていないそうだが、この虫の繊細な鳴き声を聞いたときに、儚さを象徴する「邯鄲の夢」という言葉が連想され、「カンタン」という名前になったのではないかとされているそうだ。そんな美しいカンタンの鳴き声が気になった人はぜひ検索してみよう。そして外で探してみよう。